環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.71
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

「平成２２年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部環境政策課長　　梅木　弘之

平成２２年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様には、ますます御健勝のことと心からお喜び申し上げます。

貴団体におかれましては、多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境づくりを目指して、環境学習活動をはじめ、地域の環境保全に関わる活動、地球温暖化防止の取組など、本県の環境行政の推進に多大な御協力をいただき感謝申し上げます。

特に現在の「千葉県環境学習基本方針」の策定、及びその取組の推進については、多大なご協力をいただくとともに「エコメッセ2009inちば」や「環境シンポジウム2009千葉会議」では、加藤会長、桑波田事務局長が実行委員長を務められ中心的な役割を担っていただきました。「エコメッセ2009inちば」は、初めて参加者が1万人を超え、多くの県民に千葉県での環境保全の取組を広めることができたと感じております。

昨年は、世界的注目が集められた年末にデンマーク・コペンハーゲンにおける、COP15の開催、地球温暖化問題に対する関心がますます高まりを見せた年でありました。

地球温暖化問題の解決に当たっては、国はもとよりあらゆる主体、中でも家庭における意識の向上に環境団体が果たす役割は誠に大きいものがあります。

千葉県では、今後の県政運営の基本となる千葉県総合計画の策定作業を進めていますが、同計画原案においても、地球温暖化対策に重点的に取り組む施策のひとつとされており、本県としては、引き続きあらゆる主体と連携・協働して、地球温暖化対策の推進に積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、会員の皆様のさらなる御理解と御協力を改めてお願いする次第です。

終わりに、環境パートナーシップちばの更なる御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

《新たなパートナーシップに向けて》

環境パートナーシップちば 代表 加藤 賢三

次世代に良い環境を残す、持続可能な社会をつくることは万人の願いです。いま、地球環境、地域環境ともこれ以上悪くしないために、生物多様性の保全や地球温暖化防止など、私たちにできることを考え、行動することが大切です。当会は、「環境考え、全県ネット」、「市民団体の輪、いよいよ始動」という見出しで、平成９年１０月１日号の朝日新聞に紹介されました。以来、市民主導型の環境ネットワークを構築し、市民・企業・行政とのパートナーシップのもと心豊かに暮らせる、持続可能な社会の実現を目指しながら、今日に至っています。主な活動としては、情報発信（HP、機関誌）、エコメッセや各種シンポジウムへの参画と情報発信、印旛沼をきれいにする活動、エコサロン、ESD*、環境パートナーシップフォーラム、環境学習などを行ってきました。

当会は今年で 13 年目に入ります。新たな環境パートナーシップの推進に向けて、今こそ、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、企業、行政、専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図り、エコメッセなどを通じて、各主体とのつながりを推進して行ければと思います。

*持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)

花見川エコウォーキング

～幕張・武石の歴史と文化を歩いて体験～

千葉県ちばＮＰＯ月間（平成 21 年 11 月 23 日～12 月 23 日）のＮＰＯの日 12 月 1 日(火)の一斉行事に合わせて、花見川の下流部に焦点を当てた「花見川エコウォーキング」を企画し開催した。天候に恵まれた晴天の朝９時半、花見川区役所に 20 名が集合した。参加者は、酒々井町、千葉市、八千代市など花見川や歴史に興味のある方々でした。

出発に先立ち主催者あいさつを「環境パートナーシップちば」加藤代表が行って９：45 分出発した。牧野光男・郷土歴史研究家の案内で第１の探訪地に向け出発し途中、**大賀ハスの東京大学附属緑地植物実験所大賀蓮池**で説明を受けながら見て、以下のとおりウォーキングと史跡巡りを楽しんだ。

なお、JCN 千葉（デイリー千葉）テレビ局が取材と撮影で出発から三代王神社まで同行された。

子安神社(花見川区畑町)

桓武天皇（781～806 年）の延暦(782～806)年間にこの周辺を支配した豪族によって造られた子安古墳の山を御神体とし、五穀豊穣の神として創立される。第 60 代醍醐天皇（897～930）の延喜年間（901～923）、櫛稲田姫命を祀（ﾏﾂ）り子安大明神となる。千葉之介平常胤（ﾂﾈﾀﾈ）公の信仰厚く、建久４（1193）年 奥方懐妊のとき安産祈願をしたところ男子を安産され、そのお礼に建久４年９月 17 日、社殿を造営して棟札し大祭典を行った。

これが７年に１度の式年大祭の始めとされてる。「下総三山七年祭り」で母君役（二宮神社の妻）を務めている櫛稲田姫命を祀る神社である。室町時代の文安２(1445)年から 560 年以上続いていて千葉県指定無形民俗文化財になっている。

汐留橋（花見川区）

武石町と畑町とに架かり、汐留の堰(ｾｷ)のすぐ近くには花見川水質観測所がある。橋を渡り真蔵院へと向かった。

真言宗・真蔵院(花見川区武石町)

大同元（806）年、興教大師によって開山と伝えられ、千葉常胤の三男 武石三郎胤盛（ﾀﾈﾓﾘ）の菩提寺で正面右に千葉市指定文化財の 3.31mの板碑が建っている。胤盛の曾孫胤長が母の菩提を供養するために建てたとされている。

境内にある浪切不動堂の裏山には天女が舞い降りた伝説があると、牧野光男氏の説明であった。

三代王神社(花見川区武石町)

千葉県神社庁資料で創建年代不詳とされるが、承安(1171～1174)のころ千葉之介常胤三男の武石三郎胤盛が城を構え崇拝されたという。建仁 2（1202）年、武石三郎胤盛が領内安全の守護神として明神を勘請したことに始まるともいわれる。

社殿は天正（1573～1592）・享保(1716～1735)年代に修築を加え宝暦（1751～1763）年間「武石明神」と称し寛政８(1796)年以来「三代王神社」と称す[文亀元(1501)年という文献もある]。

昭和 53(1978)年基礎工事及び屋根替えが行われた。「下総三山七年祭り」では産婆役を務める。神社正面石段参道の鳥居の左側に１mほどのおもしろい禁制碑が建っていて「怪盗心境内入者不遠可神罰」の漢文が刻まれている。「盗心をもって境内に入る者は遠からず神罰がある。」お賽銭泥棒への警告であろうか。

ここで神社・仏閣めぐりを終わり、数人の参加者は所用ため一同と別れた。

緑地公園（昼食・ふりかえり）

正午少し過ぎ花見川区役所近くの公園に到着し昼食後、約 5.4ｋｍウォーキング後の感想を述べあい、出発地の花見川区役所へ帰り解散した。

神社仏閣も創建・開祖の歴史を知ると身近に感じることができると痛感した１日であった。

取材撮影された JCN 千葉テレビの放送は 12 月２日(火)18:00 からの「地元の歴史と文化を知ろう」の標題で、初回から数回再放映されている。

三代王神社境内において

（文責：吉田）

ものがたり　百姓仁兵衛さんとムクノキ

ちば河川交流会　松尾 弘道 氏

私たちの仲間で「印旛放水路（花見川～新川）の歴史をたどるサイクリング」を平成２０年３月に行いましたが、その準備の段階で手にした文献から、江戸時代天保年間の堀割普請で庄内藩から手伝いに来た農民が千人を超す大人数だったこと、普請中途で亡くなった農民のお墓が花見川沿川に在ること、普請を終えて故郷に帰還する際持ち帰ったムクノキの苗木が百数十年経った現在大木に成長して土地の人に見守られていること、を知りました。

さっそくその暮れに山形県遊佐町を訪ねて、ムクノキを屋敷内に植え、育ててきた遊佐郷の（普請当時）肝いりであった土門家の人にお会いし、いろんな話を伺ってきました。土門家の先代の当主は遊佐町の調査団とともに今から数十年前に（天保時代に村の衆が通った道筋をそのままたどって）千葉市を訪ね、遠地で命を落とした農民のお墓にお参りされたとのこと。

普請現場となった千葉市や八千代市と同様、労働を提供した側の遊佐町でも町史のなかで普請手伝いの歴史がきちんと記録されていることが分かりました。ムクノキを縁に千葉と山形の双方で歴史が共有され次代に伝えられることを期待して作文しました。

今から約 160 年前(1843 年)、庄内藩（今の山形県の北部）遊佐郷に仁兵衛という名のお百姓がいました。仁兵衛さんは 57 歳でそろそろ隠居してもよい年齢でしたが、そのころこの地方は鳥海山の噴火や地震がひんぱんに起こり、日照りや冷害で不作の年が多く毎日朝から晩まで働いても生活は大変でした。

とある夏の日、村役人から、「江戸の幕府からの命令で、遊佐郷から 300 人を集めて下総の国（今の千葉県北西部）にある印旛沼の堀割普請に出かけねばならない。出来るだけ若い衆を各家から出すこと」と達しがありました。仁兵衛さんは若くはありませんでしたが、家の都合で自分が出ることにし、来年の田植え前までには帰れるからと、それまで田んぼを家族に任せて、郷の仲間と一緒に出発することになりました。

庄内藩全体で約 1500 人が集められました。7 つの班に分けて国元を出発し、途中最上川を遡(ｻｶﾉﾎﾞ)り、福島、宇都宮、野田と約 500km を歩きづめで、2 週間かかって横戸村（現千葉市横戸）の工事現場に着きました。遊佐郷の一団は「ゆ」の字を記した笠をかぶり、肩に鍬(ｸﾜ)をかつぎ、野良着同然の身なりで数百人が列をなして歩く光景には、いつも大名行列を見なれた街道筋の人たちもびっくりしていました。

印旛沼堀割普請とは印旛沼と江戸(東京)湾の間約 16km を開削して印旛沼と江戸を一本の川でつなごうというものです。この普請には仁兵衛さんたち庄内藩のほかに沼津藩（静岡県）、鳥取藩(鳥取県)、秋月藩（福岡県）、貝淵藩（千葉県）からの人夫も動員されていて、16km の工事延長を手分けして１年足らずで開削してしまおうという計画です。仁兵衛さんたち庄内藩はその中でも一番大変だといわれる横戸地区の工事です。というのもこの地域は印旛沼と江戸湾を隔てる約 20～30m の標高の台地を開削しなければならないからです。

毎朝４時にホラ貝の合図で起こされ、午後４時までのきつい仕事が続きます。寝泊まりする宿舎は雨露をしのぐ程度の掘っ立て小屋で、床からアリ、ムカデがはい出てくる始末です。千葉は海に近いから魚貝類にありつけるだろうと期待していたほどには新鮮な魚は食卓には出ず、長旅の疲れと夏の暑さも加わって病気になる人足も出てきました。仁兵衛さんも齢のため体力が続かず、9 月のなかばにとうとう床に伏し、治ることなく亡くなってしまいました。国元を立って 70 日後でした。

遊佐郷の仲間たちは地元のお寺に頼んで埋葬をしてもらい仁兵衛さんの霊を弔いました。庄内藩で 19 人、遊佐郷だけでも 7 人の人足が亡くなりました。

堀割普請はいろいろ難儀しながらも開削が半分以上も進んだかと思われる閏(ｳﾙｳ)９月、突然中止の命令が幕府から出ました。この普請計画の責任者だった老中水野忠邦が天保改革の行き詰まりの責任を問われ、お役ご免になったからです。

全国から普請に動員されていた各藩と同様庄内藩も現地の跡始末を終え次第、来た時と同じようにいくつかの班に分かれて故郷庄内に向け旅立ちました。出発に先立ち、遊佐郷の責任者として普請に同行してきた肝いりの(土門)六左衛門は工事現場に生えていたムクノキの幼樹を掘り出し、懐にいれて故郷に持ち帰りました。奥羽街道はすでに秋から冬に季節が変わりつつ

あり、庄内にはいる手前の山越えでは吹雪にみまわれ、病人をかかえて、やっと遊佐郷までたどり着くことができました。

持ってきたムクノキは六左衛門の屋敷内に植えられ、厳しい寒さの庄内の地でもめげることなく大きく育ってゆきました。いつしか同郷の人たちは毎年決まってこの木の下に集まり、異郷の地に眠っている仁兵衛さんたちを遠く偲(シノ)ぶようになりました。

そして現在、ムクノキは 170 年近くの年輪を刻み、東北地方ではまれな大木として山形県の天然記念物に指定されています。そして木のすぐそばを鳥海山の雪解水を集めて月光川が流れ、秋には鮭の大群が日本海から遡上してきます。

仁兵衛さんのお墓は、堀割普請現場近くの千葉市横戸共同墓地の一角にあります。お彼岸には地元の人たちの手で花がたむけられています。

ムクノキと代々見守ってきた土門家の方

補記　花見川の歴史では印旛沼掘割普請は欠かせません。花見川エコウォーキングのときにこの学習をしたので、その後、この物語を著した松尾さんにご寄稿いただきました。お心のこもった素晴らしい作品だと思います。（文責：牧内）

★第 41 回環境パートナーシップエコサロンの報告★

「低炭素社会に向けたと都市ガス事業者取組みについて」

日時：　12 月 10 日 18 時 30 分～

会場：千葉市民活動センター　会議室

話題提供者：鹿野　陽子　氏、小原　直子　氏（東京ガス㈱千葉支店）

東京ガスさんは、環境対策に積極的に取組まれており、啓発活動も活発にされております。今回は、都市ガス事業者として CO２削減への取り組みを紹介していただきました。

1．都市ガスと環境

都市ガスの燃料は天然ガスでその組成はメタン(CH4)。化石燃料だが、石油に比べて燃やしても CO2、SOX などの大気汚染物質の排出は極めて少ない。また、アジア、アラスカ、サハリンなどから液化されて輸入されるので、中東を主な原産地とする石油に比べて安全供給の面でも優れている。埋蔵量は確認されている現時点でもあと 60 年分あり、国の政策でも天然ガスの活用が推進されている。

2．省エネ・新エネの取組み

調理の分野では「高効率ガスコンロ」を提供している。熱効率は IH コンロ(電気)が 79%、ガスコンロは 56%だが、電気は発電時の排熱ロスや送電ロスなどがあるのに対し、ガスはガス管を通じて各家庭に直送されているので途中のロスはほとんどない。また、電気を使う地域の近くで発電するので、発電時の排熱も有効活用できる。さらに、「炎の効果」は人間の情緒的要素にも良い影響を与える。

「潜熱回収型給湯器」は熱交換器を二度通すことで、95%の効率での給湯を実現している。また、都市ガスなどを燃焼させ、発電しながらその排熱を利用して温水も供給する家庭用の「コージェネレーションシステム」は CO2 削減効果が 40%と高い。工場、オフィスビル、病院等では従来から広く使われており、省エネ機器・システムとして有望といえる。また、ある地域全体の建物に冷暖房、温水を供給する「地域冷暖房」も各地で稼働しており、東京ガスでは幕張新都心で実施している。

今後は、太陽光発電、風力発電、コージェネレーションシステムなど多様な方法で、使うところでエネルギーをつくり、ネットワークで結んで時間的、面的に熱や電気を安定して融通し合う、有機的な「スマートエネルギーネットワーク」の実現が望まれる。

3．環境コミュニケーション活動

東京ガスでは、省エネ行動促進のための小冊子、楽しみながら環境を考えるゲーム、エコクッキング、出張授業、施設見学など、双方向での市民とのコミュニケーション活動を行っている。

このあと、電気と都市ガスの環境への影響比較や、建築業者・行政・消費者への啓発活動の重要性、さらには持続可能な社会を維持するためのエネルギー源の将来像など活発な意見交換ができました。

(文責：広報部)

千葉市公民館講座報告
白井公民館「エコ！省エネクッキング」

広田　由紀江

去る 11 月 21 日（土）、千葉市白井公民館において「エコ！省エネクッキング」を行いました。

初めて伺った白井公民館は、移転・新築した公民館だそうで、屋根には太陽光パネルが付き、広々とした平屋建てのすばらしい公民館でした。当日は、親子でエコクッキングとのことで、23 人の希望があり、全員参加でした。子どもたちは、小 1～6 年と幅広く、主に 4 年生が多かったです。近くにある白井小学校にチラシを配って募集をしたそうで、参加者は、親子ともに知り合い同士で、互いにやりやすかったようです。その中には、開館前から並んで申し込みをしたという熱意のある方もいらしていました。

メニューは、「ロールチキン」「スープ」「ロールおにぎり」です。チキンは、保温調理で仕上げ、省エネで作ります。スープはチキンと同時にでき上がり、 おにぎりとチキンをワンプレートに盛り付けるので洗い物が少ないのがウリです。当日は晴れたので、保温調理中にソーラークッカーでポップコーンも作る実験もしました。 子どもたちに大受けで、最後のアンケートにもソーラークッカーのことが多く書かれていました。

簡単な料理を親子で楽しく作り、参加者の反応は大変よく、皆さんの気持ちの参加が強く感じられました。参加者からは、「ふだんエコなんて考えたこともない」という声が多かったのですが、みんな楽しそうに参加されていたし、子どもたちも水の出し方やお鍋の火加減などをちゃんと気を配っていたのが印象的でした。最後にゴミの計量を行ったときは、「なぜゴミの量が違っていたのか」「何が多かったのか、少なかったのか」で大変盛り上がりました。

参加者にも公民館の皆さんにもお天気にも恵まれ、とてもよい時間を過ごさせていただきました。公民館の方々からも大変親切にしていただき、感謝しております。ありがとうございました。

県民環境講座「家庭でできる温暖化防止」

馬渡 敏隆

毎年 12 月は地球温暖化防止月間であります。COP3 を契機として翌年の平成 10 年から 12 月を地球温暖化防止月間と定め、国民運動の展開がなされています。12 月 5 日船橋市中央公民館で行われた県民講座「家庭でできる温暖化防止」に出席する機会を得ましたのでご報告します。

講演が一題「家庭からの CO_2 排出の現状」がありました。家庭からの CO_2 排出割合は排出総量のうち 14%、プラス車等で合計 21%になります。家庭の排出増加は世帯数の増加や 1 世帯当たりのエネルギー使用の増加にあります。豊かな生活に慣れた現在、昔には戻れませんが、自分の家庭の CO_2 排出量を知ることはまず何より重要と思いました。その上でムダ、つまりもったいないを思い出し、ロスをなくすことから始める。船橋市では「環境家計簿」のフォーマットが準備されています。現在、環境税が話題になっていますが、CO_2 を減らした人が得をし、減らせない人には対価を支払ってもらうことにより、地球の将来への投資に役立てようとするものです。

次に、各家庭においての事例発表が 3 件ありました。電気の節約事例、ガソリンの節約事例、家庭のエネルギー節約の事例など大変参考になりました。このように懸命にムダやロスを見つけ改善されている様子が分かり感銘を受けました。

その後体験学習に参加し、人間の手で作れる電気など試してみました。地球を滅亡させるわけにはいかないので、温暖化被害を食い止めなければという意識は持ち続けています。このように大勢の人が CO_2 削減の意識を持ち、まずやれる範囲でやることができれば心強く思いました。

実は私も環境家計簿をつけています。CO_2 を見える化すれば、「減らして得する」ことができます。平成 20 年は電気・ガスの年間支払額が前年より 2 万円程度減少したのです。得しました。まだそれでも年間 23 万円程度は支払っています。平成 21 年は 2 万 5 千円得しました。食器洗い器の回数や待機電力を減らしたりしたことが減少につながりました。肝心の CO_2 排出量は 19 年から始めて 21 年の 3 年間で 22%減少です。「減らして得する」だれのためでもなく、地球と家族のためです。わずかですがうれしい思いです。

知ろう、考えよう！私たちの生活と産業廃棄物！
～廃棄物の適正処理の推進に向けて～

開催日時：平成 21 年 11 月 21 日（土）午後 1 時～4 時 30 分
場所：千葉県文化会館　小ホール

家を建て替えるときの廃材、水洗トイレから下水道で処理される汚泥など、産業廃棄物は私たちにも身近です。産業廃棄物は負のイメージがありますが、産業廃棄物処理について、県民・NPO・事業者及び行政の立場で、相互理解を深めるため、上記の日程でシンポジウムが開催されました。

参加者は、市民や事業者、行政など約 180 人で、廃棄物処理について、各立場から素直な意見が出され、時間があっという間に過ぎました。環境パートナーシップちばは、県民の立場としてパネルディスカッションのパネリストの一人として、事務局長の桑波田氏が参加しました。

今回は、21 年度第 1 回シンポジウムでしたが、さらに理解を深めるために、平成 22 年 1 月 30 日（土）には、第 2 回目のシンポジウムが市原市で開催されます。

今回のシンポジウムは、(1)基調講演 (2)事例発表 (3)パネルディスカッションの 3 部構成でした。

(1)基調講演は、「BUN さんと一緒に考える～どうなっているの？リサイクル」の演題です。講師の長岡文明氏は、元山形県職員で、保健所、本庁で、長く廃棄物処理法などを担当し、平成 21 年 3 月早期退職され、同年 4 月から研修事務所(BUN 環境課題研修事務所主宰)を開設、講演など国内でご活躍の方でした。廃棄物と有価物の判断は難しいが、総合判断が必要であるなど、「廃棄物処理法」について分かりやすい事例で説明されました。また、長岡氏は、廃棄物法はやってみると面白いと話を結ばれました。

(2)事例発表は、以下の 3 名が、事業の方針や日ごろの取り組みについて 20 分間ずつの発表でした。

・「産業廃棄物処理業の役割と今後の発展を期待して」（財）日本産業廃棄物処理振興センター
理事　三本木 徹 氏

・「循環型社会を担って」千葉オイレッシュ㈱
代表取締役　野村 進一 氏

・「千葉大学における学生の取り組みと学生から見た廃棄物」　NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会　理事長　菊池 翔太 氏

(3)パネルディスカッション

テーマは、「市民に理解してもらう産業としての将来像」で、パネリストは、事例発表者（3 名）、桑波田 和子 氏（環境パートナーシツプちば事務局長）、和田 紀夫 氏（千葉県環境生活部次長）、コーディネーターは、講師の長岡氏でした。

パネルディスカッションから参加した、桑波田氏からは、当会の活動紹介の中で主に、県内の環境保全活動を推進するための一つとして、エコメッセについての紹介でした。和田氏からは、千葉県の現状と取り組みについて 3R の推進、適正処理の推進などについての説明でした。

討論は以下の内容についてでした。

(1)産廃はなぜ難しいのだろうか？　どうしたら産廃へ理解が進むのだろうか？

(2)魅力ある産業になるには何が必要なのか？循環型社会の形成に向けて産業廃棄物処理業の将来や可能性を秘めているのか？

(1)については、産業廃棄物に関して、不法投棄や、業者への不信感など多くの市民は暗いイメージを持っているとの意見が出ました。廃棄物は市民に分かりにくいことから、環境学習などでお互いに理解する場を設ける。エコメッセなどの環境イベントで、事業の紹介や説明も理解してもらう場として大切である。廃棄物処理の当事者は、取引を可視化することで理解しやすくする。処理業者の適正な処理を推進していくためには、技術推進を図る、業者は社会的使命感(CSR)と誇りを持つ、優良な企業を表彰するなどの取り組みが必要など、意見が出ました。

(2)については、野村氏から、「自分は元銀行マンで、産廃業界に生きがいを感じて転職をした」、ISO 委員会の菊池氏に、「産廃業者へ就職を希望しますか？」との質問に、「今まで考えたことはなかったが今後考える企業の一つとします」との答えに、会場が和みました。若い人の参画と理解が、将来の産廃業者にも市民にも、また資源循環型社会を推進していく上でも重要です。

今回のシンポジウムを受けて、第 2 回目のシンポジウムでは、「産業廃棄物処理のリスクアセスメントを考える」を主にして開催されます。

（文責：広報部）

エコマインド生のインターンから

エコメッセ２００９in ちばに参加して

太田 孝則 氏

エコマインド養成講座の活動の場として環境パートナーシップちばのブースで手伝いをしたが、エコが年々すごいスピードで盛り上がっていることはすばらしいことだと思った。

ただ、会場の位置取りに問題があったのではないか。アサリ貝による汚水浄化、ケイソウの水質浄化への影響はすばらしい発表だったが、トイレに近いブースで客が流動的騒々しくＰＲに難があったことは否めないと思う。水を取り上げたブースは７～８社あったと思うが自然回帰の意味では最高のものであった。

温暖化の影響が深刻の度を増すなか、新しいＣＯ２削減の目標が示されたが、２５％削減は相当厳しいものと考えざるを得ない。達成は困難な状況である。企業の取組みが最重要であり、行政を含めて成果が問われるところである。

私たち個々のＣＯ２削減は、それぞれの削減に取組み自分たちのできることを背伸びすることなく行うことだと思う。そして地道なことが次世代へのメッセージになればよいと思っている。

花見川わくわく歩き隊に参加して

小林 千恵子 氏

平成２１年９月２７日　晴天　男性５名　女性５名、心地よい風が吹いていた。

幼かったころ川は水遊び、魚釣りの天国だった。今は大分浄化されたとはいえ、生活水が汚濁につながっている。初めて歩く新川、どこまでが新川か花見川か分からなかった。

新川は印旛沼の氾濫（はんらん）を防止するために掘られた人口の川だった。平戸村の染谷源右衛門が掘り始め苦労して花見川と接続して東京湾に流すようにした。今と違い工事も大変なことだったと思う。

川にも歴史あり！

遺跡の跡も見学、畑の中に白い貝片が散らばっていた。私が住んでいる谷津も貝塚跡見学会があった（古代見学）。奈良～平安時代にかけての縦穴住居跡、掘建て柱建物跡、そして泥メンコやビー玉、火打石などの展示があった。

一説として江戸から大正時代にかけて、江戸市中から運ばれてきた下肥（糞尿）の中にゴミとして混じっており、そのまま肥料として畑にまかれたからだと言われている。

当時、下肥は貴重な有機肥料で、武家屋敷や民家（長屋）から汲み取られた下肥は高い値段で買い取られていたという。現代とは逆である。

環境を損なわない環境維持は廃棄物を出さないことだ。江戸時代には戻れないが大量廃棄が多すぎる。

加曽利貝塚（縄文）と違い、畑に貝が散らばっているのはずっと後の時代のものと講師が話された。膝をいたわりながら、川、文化、歴史を学び、時間オーバーのオマケまで付いて大いにいそしんで参りました。

車を出してくださった方、講師の先生始め皆様ありがとうございました。

運営委員会報告

１１月運営委員会

日時：21 年 11 月 26 日(木)

報告　・「環境学習コーディネーター事業」中間報告会(10 月 28 日)と今後のスケジュール
　　・廃棄物の適正処理を推進するためのシンポジウム(11 月 21 日)

協議事項

【広報部】
・だより 70 号、71 号について

【事業部】
・12 月 1 日 NPO の日ウォーキング
・12 月 19 日わいわい歩き隊の検証ウォーキング

【事務局】
・12 月エコサロンについて(12 月 10 日)
・印旛沼流域フォーラムについて
・エコメッセについて
・22 年度の方針

12 月運営委員会

日時：21 年 12 月 10 日(木)

報告　・千葉市エコ体験スクール報告書提出
・NPO の日「花見川エコウォーキング」開催

協議事項

【広報部】
・だより 71 号

【事業部】
・わいわい歩き隊の検証ウォーク

【事務局】
・12 月エコサロンについて
・BAY　FM 基金申請
・エコメッセについて
・22 年度の方針

1 月運営委員会

日時：22 年 1 月 14 日(木)

報告　・BAY　FM 基金申請提出
・わいわい歩き隊の検証ウォーク
・エコメッセ 2010in ちば実行委員会
・エコフェアいちはら

協議事項

【広報部】
・だより 71・71 号

【事業部】
・2 月エコサロンについて
・東京ガス施設見学について

【事務局】
・環境学習コーディネーター事業報告会
・22 年度の方針

お知らせ

第 42 回環境パートナーシップエコサロン

テーマ：いのちの大切さ－環境と平和
日時：2 月 18 日（木）18:00～
会場：千葉市民活動サポートセンター会議室
話題提供者：環パちばアドバイザー　高橋 晴雄 氏
参加費：500 円（資料代）
申し込み：あらかじめご連絡ください。環パちば会員はどなたでも参加できます。
E-mail: YFA03131@nifty.com 桑波田

東京ガス袖ヶ浦工場・幕張新都心地域冷暖房施設見学会

開催日：3 月 15 日（月）
集　合： 8:45　NTT 千葉支店前
解　散：16:00 JR 京葉線 海浜幕張駅または千葉駅
参加費： 100 円(保険料)
申し込み：あらかじめご連絡ください。どなたでも参加できます(定員 40 名先着順)
E-mail: NAE3211@nifty.com 小関

やちよ里山シンポジウム 2010　テーマ：里山保全と生物多様性（仮）～めぐみ豊かな里山保全に向けて～
日時：3 月 6 日(土) 13 時 30 分～16 時 00 分　**開催場所：**八千代緑ヶ丘公民館　集会ホール(5 階)
基調講演：「里山保全と生物多様性」 長谷川 雅美 氏(東邦大学教授)
活動紹介：「船橋市内での里山保全活動」中嶋 守男氏(NPO 法人こぴすくらぶ代表)　ほか
参加費：無料　**お問い合わせ：**八千代市環境保全課　電話：047-483-1151(代表)

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
ＨＰ：http://kanpachiba.com　E-mail: info@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043―246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872　千葉県環境財団
環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		